

グリーンサークル 51号

クローズアップ

活動団体紹介

講座イベント紹介

多摩市みどりのかわら版

丸山 晃平

フレンドツリーサポーターズ

グリーンライブンセンター夏祭り

田口 桃代

～クローズアップ～

公園のソフト面の取り組みとは

TAMA セントラルパーク JV 丸山 晃平



コナラ



多摩中央公園改修整備・運営事業の事業者であるTAMAセントラルパークJVの丸山と申します。多摩中央公園は改修工事によるハード面の整備だけでなく、より市民の方に公園を活用して

頂けるように、ソフト面の取り組みも併せて進めておりますのでご紹介したいと思います。

まず初めに私自身のことについて少し触れると、私は江東区に本社を構える物林株式会社の社員で、入社1年目から公園の指定管理事業に関わる機会があり、2年目からは江東区の豊洲ぐるりパークの常駐職員として、3年間公園運営管理のノウハウを学びました。多摩中央公園には事業者に応募する段階で初めて訪れたのですが、大池を望む広大な芝生に驚き、可愛いカルガモ親子に癒され、そしてグリーンライブセンターや旧富澤家など公園内の魅力的な施設の存在を知り、訪れたその日にお気に入りの場所になりました。

そんな多摩中央公園での仕事が始まり、今私はどこで何をしているのかというと、パルテノン多摩5階にあるクリエイティブキャンパス企画室に普段は勤めており、そこで、「公園運営管理」と「連携協議会事務局」の2つの役割を担っております。この2つはどちらも冒頭に述べた「ソフト面の取り組み」に当たる物と考えています。

「公園運営管理」とは何か？公園は公共施設のなかでも特に自由度の高い場所だと思います。だからこそ、訪れる人それぞれに異なる目的があり、それが利用者トラブルを招くこともあるため、管理するうえでは完全な自由ではなく、ルールで雁字搦めにするでもなく、多くの人々が納得するルール作りが必要だと感じています。そのために行っている取り組みとして、公園の使い方を考えるワークショップの

開催があります。場所や時間で分けしたルールなどを利用者と一緒に考えていくことで、多様な利用が可能になることを目指しています。

次に「連携協議会事務局」についてです。公園を核に公園周辺施設や近隣大学との連携を強化し、賑わい創出、回遊性向上を目指す協議会の事務局をTAMAセントラルパークJVが務めております。この連携協議会にグリーンライブセンターも構成団体として加わっており、イベントの開催などを通じて連携を強めています。

この2つの役割を繋ぐ目的で開設したのが、私が現在勤めている「クリエイティブキャンパス企画室」です。クリエイティブキャンパス企画室では、市民活動の情報収集発信拠点としての機能と、「こんな活動がしてみたい」という相談を受け付ける窓口としての機能があります。クリエイティブキャンパス企画室で受け付ける相談は活動の種だと思っています。この種を花咲かせるために、周辺施設と一体となってプレイスメイキングをしていくことが我々の使命だと考えています。まだまだ手探りの部分も正直ありますが、精一杯努めてまいりますので、よろしくお願いいたします。



クリエイティブキャンパス企画室（パルテノン多摩5階東側）
2023年1月よりグリーンライブセンターの事務所がこちらに移転します。多摩中央公園と我々の化学反応がこの場で生まれることを期待しています。

～活動団体紹介～

八ヶ岳活動・フレンドツリーサポーターズ

フレンドツリーサポーターズ 副代表 益子 千秋

2005 年の多摩市立八ヶ岳少年自然の家(以降自然の家)主催事業の募集がきっかけで、多摩市民が「多摩市民の森」で活動するための団体を立ち上げることになり、2006 年にフレンドツリーサポーターズ(以降 FTS)が誕生しました。当初は作業路の作成・倒木の片づけなどを行い、その後間伐作業が中心となる活動をしてきました。

2019 年に自然の家が直営から変更になり、FTS は同年に多摩市民の森で行われている市内小学校 6 年生の『林業教室』を初見学しました。コロナ禍の中で自然の家スタッフによる『出張林業教室』が市内小学校で実施され、FTS メンバーもグリーンボランティア森林会の協力を得てサポートをしました。

2021 年八ヶ岳での『体験林業教室』が再開され、FTS でも八ヶ岳活動(林床整備・伐木)と見学も再開しました。その後 2023 年 2 月 FTS から市内豊ヶ丘の杜緑地を管理する団体が分離することになり、FTS の活動は八ヶ岳の市民の森の活動のみに絞られることになりました。

八ヶ岳の市民の森は国有林で、自然豊かな森です。カラマツが多く、林床には季節の変化と共にたくさんの山野草が咲きます。春にはマイヅルソウ・イカリソウ、夏にはオカトラノオ、秋にはトリカブトなど・・・樹々の芽吹き、新緑、紅葉(カラマツは黄金色)と鳥のさえずり・・・深呼吸をすると生き返るようです。この森を森林管理署や自然の家と協議・



伐木作業。
受け口により伐倒の場所が決まるため、慎重に受け口を作る。
何人かでチェーンソーの向きを確認しながら行う。



フレンドツリーサポーターズの皆さん(八ヶ岳)

連携して保全活動を継続して進め、市民の方々に親んでもらうことが FTS の主たる目的です。利活用を図ると共に、FTS 団体自身の森林管理の学習や伐木技術の向上も図りたいと考えています。また、この森は市内全小学校の『体験林業教室』の場としても大切な場所です。安全に体験活動が出来るよう林床整備を行い、サポートなどもできたら子どもたちとの交流も広げられると考えています。加えて、市民向けに八ヶ岳の自然の魅力発信も出来たらよいな・・・とも考えています。

2023 年度は年 5 回(5.6.7.9.10 月)の 1 泊森活動(日帰り参加も可)と年 2 回(6.9 月)の小学校体験林業教室見学・日帰り活動(実質 3 回実施)を年間計画としました。参加者は FTS メンバー以外にもビジターとして参加下さる方々もいて和やかに無理なく楽しく活動しています。来年度は保全対象区域が移動することが予定されていることもあり、メンバー皆でどんな活動になるのか・・・自然の家や森林管理署とも協議・連携しながら計画していきます。

フレンドツリーサポーターズ
(国有林：多摩市民の森フレンドツリー)

年 5 回(5～7 月、9～10 月)1 泊 2 日 八ヶ岳少年自然の家にて
年 2 回(6、9 月)の小学校体験授業教室見学を実施。

お問い合わせは多摩市立グリーンライブセンターまで
電話 042-375-8716

～講座イベント紹介～

グリーンライブセンター夏祭り

恵泉女学園大学 佐藤 佐知子



みんなで準備作業
(ガーデンサポーターの皆さん、
恵泉女学園大学学生)

8/19、20 の 2 日間、
グリーンライブセン
ターでは初めての夏
祭りを開催しました。
酷暑という言葉がび
ったりと当てはまる
ような、暑い日々が
続いた今年の夏。子
どもたちが涼しい中
で、楽しく遊べるス
ペースをご提供した
いとのお考えから、急
遽開催を決めて準備

を始めました。

たくさんの方々に楽しんでいただくにはどのようなことができたらいいのかを考え、多摩市職員、多摩グリーンボランティア森木会のクラフトプロジェクト、恵泉ボランティアのガーデンサポーター、ローズクラブ、以上の団体の方々および恵泉女学園大学の学生の協力のもと準備を無事に終えることができました。

多摩グリーンボランティア森木会クラフトプロジェクトの皆さんには、ゴールデンウィークのこどもまつりでおなじみの竹の水鉄砲作りをお願いしました。竹の切り出しから、穴あけなどすばらしい技術でよく水の飛ぶ竹の水鉄砲ができあがりました。

ガーデンサポーターの皆さんには、笹の竿で魚釣りをするための画用紙の魚や、参加賞の折り紙のコマなどを作っていました。



竹の水鉄砲でお面に当てられたでしょうか？涼しいひと時。
(多摩グリーンボランティア森木会 クラフトプロジェクトの皆さん)



「ガーデンで咲いている」花の塗り絵は、グリーンライブセンターにしかないでしょう。素敵な試みです。(ローズクラブの皆さん)

ローズクラブの皆さんには、恵泉花とみどりの講座、ボタニカルアートの受講生がいらっしゃるのので、ガーデンで咲いているお花のぬり絵の下絵を描いていただきました。また、当日も遊び方を教えたり、参加賞を手渡して下さったりと大活躍でした。

今回、皆さんの素早い協力体制と技術力を通して、グリーンライブセンターボランティアの底力を、再確認することができました。

園内では初夏の頃から涼しげな縁側をイメージした装飾、展示を行っており、さらに当日は縁日風に提灯を飾ってお祭り気分を演出したので、和風の夏の雰囲気を出すことができました。ご来館くださった方々は写真を撮ったり、ゆっくり眺めたりと、楽しんでおられる様子でした。

2 日間とも、暑い中お子さん連れの方々がたくさん来館してくださり、久しぶりに子どもたちの楽しそうな声がいっぱい、和やかな雰囲気となりました。真剣な表情で楽しそうに遊ぶ姿を見ると、私達も嬉しくなりました。このようなイベントからはしばらく遠ざかっておりましたが、準備もみんなで楽しく行うことができ、開催をして良かったなと感じることができました。

ご来館いただいた方々に楽しんでいただけるグリーンライブセンターを目指して、素敵なガーデン、癒しの空間、学びのフィールド、楽しめる色々な仕掛けづくりを、これからも続けていかななくてはならないと、改めて強く思う機会となりました。

～多摩市みどりのかわら版～

庭で過ごすよい季節になりました

多摩市立グリーンライブセンター 田口 桃代

暑い暑い夏もようやく過ぎ、うろこ雲が浮かぶ季節になりました。秋の日差しが心地よいガーデンをご案内します。

《温室》グリーンライブセンターを訪れると、まず目に入るのが三角屋根の温室。140 m²ほどの広さで、ちょっと珍しいものでは、「砂漠のオアシス」と呼ばれるタビビトノキ、熱帯アメリカの原住民が染め物や化粧に使ったベニノキ、東日本大震災後に練馬区の相談所からやってきたマンゴーやコウモリランなどがあります。何年かに一度、花は見られないだろうと思っていた観葉植物が思いついたように開花したり、実をつけたりすることがあります。

《水琴窟》ガーデン外側の道沿いには、紫陽花、磯菊、南天など和風の植栽がされ、昔々のスタッフが作った水琴窟があります。底に穴をあけた甕(かめ)を逆さに埋めて空洞を作り、上から水をかけると穴から落ちた水滴が空洞に反響して音がする仕組みで、こちらを目当てに訪れる人もいる小さな人気スポットです。

《庭に集う虫や鳥たち》庭を悠々と舞う蝶。夏場はアゲハ、今はシジミヤヒョウモンなどの仲間やホウジャク(蜂雀)など蛾の仲間が見られます。ほか、ヒヨドリ、ガビチョウ、キジバト、コゲラ、メジロ、シジュウカラ、バッタ、カマキリ、ヤモリ、カナヘビなど、季節ごとにいろいろな生き物がやって来ます。朝夕など時間帯でも変わりますよ。

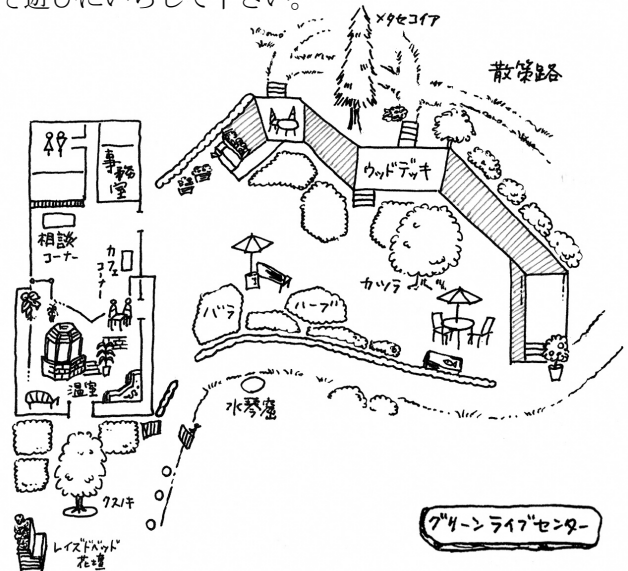
《作業場》事務室の裏手やバックヤードなど、一般のお客さんが入らないエリアにちょっとした作業

場があります。スタッフとボランティアが単管パイプを組んだり波板を貼ったりして一から作ったもので、講座や装飾で使うパーツの工作をしたり、用具の手入れなどを行っています。クリスマス時期には、制作途中のサンタさんが座っていてドキッとすることも。

《散策路》ウッドデッキを囲む雑木林の散策路では、山野草や花木が自然に近い姿で楽しめます。秋も深まるとメタセコイアの落ち葉が積もり、鮮やかな赤茶色のじゅうたんのようになります。鳥が種を落とすしていったマンリョウや小さなヤブコウジが赤い実をつけるともうすぐ正月です。

《おわりに》さて、園内をぐるっと回ってきました。小さな庭ながら、季節ごとの表情があって休みの日などに訪れると「やっぱりいいなあ」と思います。外へ出たらレイズドベッドのベンチで一休み。花壇とベンチが一体になったもので、恵泉の公開講座で作りました。

あと少しで改修工事に入りますが、その前にどうぞ遊びにいらして下さい。



温かい雰囲気定評ある、田口さん直筆のイラストです。さらに植物が美しくなるこれからの季節、ぜひグリーンライブセンターでお待ちしています。

表紙の絵

「コナラ」絵・内城葉子

芽吹きは葉は銀色の毛に覆われやさしい色。緑色に変わり夏は木陰を作ってくれ、やがて黄色から褐色に。時には赤くなることもあり落葉します。この仲間の果実は通称ドングリと呼ばれます。

<プロフィール> 1949年東京生まれ。1986年国立科学博物館第2回植物画コンクール文部大臣奨励賞、1989年世界らん展ボタニカルアート部門ブルーリボン賞、英国王立園芸協会ロンドン・フラワーショーGold Medal 受賞など

<所属> 日本ボタニカルアート協会、日本植物画倶楽部、どんぐり山を守る会代表

<著書> 「鏡の中-俳句と植物画」共著、2005年新風舎。他、絵本や学習図鑑などに描画。雑木林などの活動を通じ、実際の本や草花に触れることが細部に及ぶ精密な描写となり、植物本来の温もりを感じられる作品が特徴。

多摩市グリーンボランティア通信
グリーンサークル 51 号
発行日：2023 年 10 月日

編集・発行責任：
多摩市グリーンボランティア連絡会 事務局
〒206-0033 東京都多摩市落合2-35 多摩中央公園
多摩市立グリーンライブセンター内
電話 042-375-8716 FAX 042-375-0087
ホームページ <http://www.keisen.ac.jp/tglc/>